

you愛sunこうち の実践的防災対応に学ぶ

「避難呼びかけ体制づくり」にもチャレンジ 八本松～河内 自主防災会交流会

9月27日、八本松住民自治協防災委員会（委員長 牧野美三夫）は、河内地域センター大ホールで「you愛sunこうち」と防災の交流会を実施した。



you愛sunこうちの説明を聴く参加者の皆さん

「you愛sunこうち」で行われてきた実践的な防災対応の紹介とおし大変熱心な意見交換がなされた。

特に、平成30年7月の西日本豪雨時、当地では、災害本部と各自治会長や消防団と連携して行われた危険地域の把握、それに伴う通行止表示等の減災活動に加え、危険地域の各戸への避難を呼びかけ等の行動力には特筆すべきものがあつた。

更に、災害後の復旧対策も地域住民の方の協力を得て、道路の土砂や倒木を除く等する等いち早く通行が確保され、住民の方の生活と安心が確保されていた。

また、避難呼びかけは消防団だけでなく、今後は、地域ごとの「避難呼びかけ体制づくり」が必要との判断で、県消防

この交流会は、東広島市内で熱心な取り組みをされている「you愛sunこうち」（井上葉子東広島市防災士ネットワーク代表提案）との情報交換で防災の更なる向上を目指すもの。

当日は、両地域の防災関係者の他、東広島市内の防災士、広島大学で防災を研究される方々を加え36名の方が「you愛



説明するyou愛sun河内の兼田さん(左)と木原さん(右)

最後に牧野委員長は、「河内町の実践的な防災の取組は大変参考になった。今後、この交流会を継続し、両地域だけでなく東広島地域の防災の向上にもつながれば」と感想を述べ、終了した。

大山ハイツ地域 新たに福祉活動組織を設立

10月から幅広い「支え合い活動」を開始

大山ハイツ自治会は、4月の総会において福祉活動を行う「だいせん・絆クラブ」を設立した。この地域は、団地が形成され40年が経過し、近年、高齢化（高齢化率49%）が進んできている。そのため、3年前から市社会福祉協議会や地域包括支援センターと情報交換しながら高齢化対策を検討してきた。今回の福祉組織の設立は、これまでの検討結果をふまえ、自治協の福祉の重点活動「支え合いの仕組みづくり」に呼応したものの。



検討する「だいせん・絆クラブ」の皆さん

その組織は、自治会と自主防災会の40人の役員で構成され、高齢者の方、障害のある方や子育て中のお母さんの「ちょっとした困りごと」を手助けするもの。

大山ハイツ自治会

定例の方、障害のある方、子育て中のお母さんら「ちょっとした困りごと」お手伝いします

「だいせん・絆クラブ」

～地域を元気に活動～

大山ハイツ自治会では、令和2年10月より高齢の方、障害のある方、子育て中のお母さんの「ちょっとした困りごと」を自治会のボランティア（自治会・自主防災会役員）がお手伝いします。私たちは「大山ハイツ」で皆さんが安心して暮らしていただけるよう、活動しています。（自治会役員および自主防災会役員へご依頼ください）

ご利用料は無料です（実費がかかる場合は別途請求させていただきます）

口私たちはあくまで「ボランティア」です（プロのような仕事はできません）

こんなことで困っていませんか

- ◎電球の交換 ◎粗大ごみの搬出 ◎家具移動
- ◎買い物の代行 ◎車取り ◎底木の剪定
- ◎おふき ◎建物、家具のちょっとした補修 等

「だいせん・絆クラブ」事務局
大山ハイツ自治会長 西本達夫
【電話】082-428-5078

お気軽に
ご連絡ください

○ボランティア活動も募集します。一緒に地域のために活動しましょう！

全世帯に配布されたチラシ

- 組織設立後、新型コロナウイルス感染症予防のため遅れていたが9月26日に役員会を開き、具体的な仕組みを定め、10月から活動を開始する旨のチラシを全世帯に配布し、住民の皆さんに周知している。
- その活動内容は、
- (1) 困りごとのお手伝い
 - (2) 見守り
 - (3) 一人暮らしの方への配食
 - (4) 健康スポーツと幅広い内容。
- この「仕組みづくり」に携わった「だいせん・絆クラブ」事務局の西本達夫氏（大山ハイツ自治会長）は、「住民の皆さんに『大山ハイツに住んで良かった』と言っていただければ」と、自治会と自主防災会役員できめ細かな活動を行ってまいります」と語っている。

みんなで減災！助け合いをひろげんさい

第5回ぼうさいこくたい・2020 HIROSHIMA 広島で開催 全国オンラインで 牧野委員長 セッションに参加

10月3日、「第5回ぼうさいこくたい」が広島国際会議場と東京会場をオンラインで結んで開かれ、東広島からは牧野美三夫防災委員会委員長と神尾博志市危機管理課長が参加した。

この「ぼうさいこくたい」は、ご家族連れから専門家まで幅広い方が防災を学ぶことができる日本最大級の防災イベントで、今年は新型コロナウイルス感染症防止のためオンラインで多くのセッションが開催された。

牧野委員長から八本松の取組について、(1)広報誌や研修による住民意識の向上、(2)より精度の高い防災マップ、(3)コロナ禍での避難所のあり方、(4)西日本豪雨体験を次世代に等の取組が紹介された。

なお、このセッションの視聴者数は1万5千人との報告に、牧野委員長は、「昨今多発する自然災害に国民が大変関心を持っていて、これがうかがえました」と感想を語った。



自治協 避難者受入れ体制整備

災害対策本部・公設避難所 地域避難所の連携で避難者受入れ

八本松住民自治協議会（会長 土久岡章治）は、5月18日東広島市と公設避難所（八本松地域センター）に関する協定を結び、市のマニュアルに基づき公設避難所の開設と運営に協力することとなった。



公設避難所の受付

避難所開設期間	本部	避難所開設数	避難者	対応者数(実人数)	
				八本防災	市職員
7月6日 17:00 - 7月8日 8:00	立上	3	2	15	4
7月24日 18:30 - 7月25日 7:00	立上	1	0	14	2
9月6日 17:00 - 9月7日 8:00	立上	3	6	12	2
合 計	3	7	8	41	8

本年度は現在まで公設避難所を3回、地域避難所を延べ4ヵ所開設し、避難者の受け入れと減災に万全を期している。

恒例の災害時安否確認訓練 地震時の行動を皆で唱和 参加世帯率81%

八本松みなみ地区 自主防災会（横井國興会長）は、9月27日（日）7時50分頃、地区内24カ所の集合場所にご近所の方が集まり恒例の災害時安否確認訓練を実施した。

確認作業を行うグループは、自治会の班長の役目で、集合した皆さんの家族の安否を確認するとともに災害時の対応を全員で唱和した。

この地域は地震災害を受けやすい環境下にあることから唱和した内容は、地震が発生したら、(1)決められた集合場所に集まり、(2)ご近所の安否確認をしたうえで、(3)可能な範囲で救出や消火活動を行い、(4)子どもや高齢者を安全な場所へ誘導する。

平成27年から始められ今回は12回目。参加率も81%（421世帯中341世帯参加）と高率を維持している。



防災スローガンを唱和（1ブロック6班の皆さん）



（1ブロック3班の皆さん）

八本松みなみ 自主防災会